

# 會 務

第十九卷第五號 昭和八年五月

## 役 員 會

### 第四回役員會

開催日時 昭和8年4月24日午後5時より

出席者 會長 眞田 秀吉君  
 前會長 岡野 昇君 那波 光雄君 名井 九介君  
 副會長 大河戸 宗治君 米元 晋一君  
 常議員 田邊 良忠君 衣斐 清香君 神原 信一郎君 來島 良亮君  
           三浦 七郎君 黒田 武定君 寛 斌治君 内海 清温君  
           竹股 一郎君  
 編輯委員長 草間 偉君  
 主事 平井 喜久松君

### 協議事項

1. 視察旅行に関する件

前回の役員會に於て決定したる行程案に就き、神奈川縣靜岡縣及熱海建設事務所と打合せの上修正したる一號國道、丹那隧道及其附近視察の實行案を承認し、其他旅行に関する詳細なる事項に就き協議を爲せり。

2. 創立二十周年記念に関する件

前回の役員會に於て本件に關し各方面の意見聴取方を會長一任と決定したる爲、其依頼先に就き協議を爲し來る5月22日午後5時より丸ノ内海上ビル中央亭に於て第一回會合を爲すこととせり。

3. 常議員補選に関する件

常議員池原英治君逝去により常議員一名缺員となりたる爲定款第十三條に依り會員那須章彌君を補選せり。

4. 工業博物館建設調査委員會委員一名推薦に関する件

日本工學會より工業博物館建設調査委員會に本會より委員一名選出方申出あり、本件に就ては一應他學會の振合を調査し其指名は會長一任とせり。

5. 日本學術振興會申出に係る同會事業紹介に関する件

本件は編輯委員長に於て適當に送附書類を取捨の上會誌に登載することとせり。

6. 其他の事項

A. 振興委員報告中より實行に移すべき案件に關し役員中より小委員（會長、兩副會長、黒田、山口、神原、内海、來島、三浦、衣斐の各常議員及兩主事）を指名し審議することとし、其第一回會合を5月3日日本會會議室に於て開催することとせり。

B. 前回臨時役員會に於て決定したる専任主事設置に伴ふ人選に關しては會長、副會長に一任し居るも、各候補者に就き一應各役員の意見を聴取したり。

7. 入退會の件

糸井巖夫君外 6 名を准員に、中西増藏君外 5 名を學生員に入會を承認し、會員岩淵英之助君外 3 名、准員山内新一君外 3 名の退會を許可したり。

## 編 輯 委 員 會

### 第四回編輯委員會

開催日 昭和 8 年 4 月 10 日

出席者 委員長 草 間 偉君  
 委員 宮本武之輔君 沼田政矩君  
 關 信 雄君 中原壽一郎君

#### 協 議 事 項

1. 第十九卷第三號所載の田村義正君著「土壓計算の一考察」及福田武雄君著「軸方向力を受くる鐵筋コンクリート部材に於ける應力の分布に關する二三の理論的問題に就て」の二論文に對する討議依頼先を決定せり。

2. 第十九卷第五號彙報欄に次のものを追加す。

高知縣管仁淀川發電工事報告  
 木曾川大橋新設工事概況  
 旭橋改築工事概要  
 城東線高架改築工事概要

會員	藤原琢而
准員 工學士	佐々木 銑
准員 工學士	樋浦大三
准員 工學士	椋本修造

3. 第十九卷第六號登載論文を次の通り決定す

#### 論 說 報 告

都市高速度鐵道網に就て  
 鐵道線路下暗渠に及ぼす土壓及列車荷重  
 スプリングを有する走行車輛に因る橋桁の強制振動

會員 工學博士	小野諒兄
准員 工學士	島田昇二
准員 工學士	小澤久太郎

#### 討 議

高架式架橋に於ける應力性質の二三に就て  
 Theorie der Roste und ihre Anwendungen

准員	御厨忠文
著者 會員 工學博士	福田武雄

#### 彙 報

今後寄稿せられたるものにして適當なるものを登載のこと

#### 參 考 資 料

コンクリートの小區劃打ちに依つて收縮の影響を減じた拱堰堤	(野口 誠)
風に依る波の發生に就て	(伊藤 剛)
コンクリートの彎曲強度に及ぼす供試體の大きさ、骨材の粒徑及載荷法の影響	(野坂 孝忠)
地下水の流動に關する基本定理土砂の透水性	(本間 仁)
重乗合自動車による路面衝撃	(藤 芳 義 男)
厚さの薄い剛管の彎曲に就て	(福 田 武 雄)

4. 抄譯に關する件

責任網數に達せざるものあるを以て各委員より督促せらるゝと同時に各擔當者に原稿調を送附すること。

5. 論說報告の謝禮に關する件

謝禮を大體 3 階級に分ち何れも紀念品として銀メダルを贈呈し其殘額は副賞として丸善其他の商品券を充てること、第一號乃至第三號に登載せられた 7 論文に對し夫々階級を決定す。

#### 6. 各種工事報告を蒐集の件

下記諸工事關係諸氏に寄稿方依頼することゝす。(下記省略)

### 維新前日本土木史編纂委員會

○昭和 8 年 4 月 28 日午後 5 時より本會會議室に於て維新前日本土木史編纂委員會を開き、眞田會長外委員出席し、前會の委員會以來各方面より集りたる原稿に就き審査を爲し之を各分擔者に受持研究することゝせり。

### 關西支部記事

昭和 8 年 4 月 7 日午後 5 時 30 分より大阪市中央電氣俱樂部に於て第三回關西支部役員會を開催し支部長岩田成實君外役員 9 名出席下記事項を協議せり。

#### 1. 春季視察旅行の件

- イ、4 月 29, 30 兩日晴雨に拘らず決行。
- ロ、會費 7 圓(除汽車賃)。
- ハ、見學先は惠那峽大井ダム、木曾川上流改修工事とす。

#### 2. 土木工學研究會の件

下記の科目に依り六月下旬開催のこと。

下水處理法

内燃機關

特殊セメント

セメント同業會員に依頼のこと。

京大教授工學博士 大井 清一君

阪大助教授 佐々木 外喜雄君

#### 3. 5 月晚餐會開催の件

5 月下旬開催のこととし同日田邊朔郎博士に疏水回顧談を依頼のこと。

### 其 他 記 事

○准員佐伯三則君は川崎と同森芝鶴君は山本と改姓せられたる旨通知ありたり。

○昭和 8 年 4 月中に於て入會の手續を了し名簿に登録したる者下記の通り。

#### 准 員

小西 勝一君 杉本 治君 田中 清君 加藤 修君 小山 新太郎君

○同年 4 月中に於て寄贈及交換を受けたる雜誌其他下記の通り。

港灣第 11 卷第 4 號

工業化學雜誌歐文別冊第 36 編第 4 冊

日本建築士第 3 月號

工事畫報第 4 號

帝國學士院紀事第 9 卷第 2 號

Memoirs of the Ryojun College of Eng.

Vol. VI. No. 1~No. 2. Vol. V. No. 4.

港灣協會

工業化學會

日本建築士會

工事畫報社

帝國學士院

旅順工科大學

- 建築と社會第 16 輯第 4 號  
 建築雜誌第 570 號  
 鑄物第 5 卷第 4 號  
 鐵と鋼第 19 年臨時增刊  
 浪速工業時報第 31 號  
 電氣學會雜誌第 537 號  
 電氣學會、電信電話學會、照明學會第八回聯合大會講演要稿  
 水理學  
 九州帝國大學工學彙報第 8 卷第 1 號  
 明電舎ジャーナル第 9 卷第 2 號  
 セメントコンクリート道路 No. 13  
 火力發電所用記號  
 工學院同窓會誌第 35 卷第 5 號  
 九州帝國大學工學部紀要第 7 冊第 1 號  
 會務彙報第 17 號  
 資源第 2 卷第 4 號  
 帝國學士院紀事第 9 卷第 3 號  
 日立機械評論第 12 號  
 稻工會雜誌第 11 號  
 東京帝國大學地震研究所彙報第 11 號第 1 冊  
 同上地震觀測報告昭和 7 年第 3 冊  
 日立評論第 16 卷第 4 號  
 帝國鐵道協會會報第 34 卷第 4 號  
 水道第 8 號  
 都市美 4 月號  
 工事畫報 Vol. 9. No. 5  
 セメント工業五月號  
 機械學會誌  
 業務研究資料第 21 卷第 5 號～第 7 號  
 鐵道技術第 7 卷第 4 號  
 土木建築雜誌第 12 卷第 5 號  
 水曜會誌第 8 卷第 1 號  
 日本鑛業會誌第 49 卷第 576 號  
 東京土木建築業組合報第 6 卷第 4 號  
 水道協會雜誌第 4 號  
 都市問題第 16 卷第 5 號  
 生産管理 5 月號  
 港灣第 11 卷第 5 號  
 セメント界彙報 302 號  
 三菱電機第 9 卷第 2 號  
 鐵と鋼第 19 年第 4 號  
 建築雜誌第 47 輯第 571 號  
 日本建築協會  
 建築學會  
 日本鑄物協會  
 日本鐵鋼協會  
 浪速工業會  
 電氣學會  
 電氣學會  
 工學博士物部長穗君  
 九州帝國大學工學部  
 明電舎  
 日本ポルトランドセメント同業會道路部  
 電氣協會  
 工學院同窓會  
 九州帝國大學  
 日本土木建築請負業者聯合會  
 資源局  
 帝國學士院  
 日立評論社  
 早稻田高等工學校稻工會  
 東京帝國大學地震研究所  
 同上  
 日立評論社  
 帝國鐵道協會  
 水道社  
 都市美協會  
 工事畫報社  
 セメント工業社  
 機械學會  
 鐵道大臣官房研究所  
 鐵道技術社  
 シビル社  
 水曜會  
 日本鑛業會  
 東京土木建築業組合  
 水道協會  
 東京市政調査會  
 生産管理社  
 港灣協會  
 日本ポルトランドセメント同業會  
 三菱電機株式會社神戸製作所  
 日本鐵鋼協會  
 建築學會

## ○死 亡 會 員

會員常議員池原英治君は昭和八年四月逝去せられたり。本會は花輪  
及弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

會員小松然三郎君は同年同月逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に  
呈し哀悼の意を表したり。

# 會 報

第十九卷第五號 昭和八年五月

## 役 員 會

4月24日役員會 此日の議案は視察旅行、二十周年記念、常議員補選、工業博物館建設調査委員推薦、日本學術振興會事業紹介等々可成盛澤山、出席役員の顔振れはと見れば會長、兩副會長始め常議員9名、主事、編輯委員長、之に岡野、那波、名井の各前會長も出席され近頃稀に見る盛會である。議案に挟んだ視察旅行の案内状を目にせられた那波前會長はこれはやりましたな、之れも改革の第一歩かも知れない、と話題は早速視察旅行に這入り、將に春風駘蕩の雰囲気の中に審議は進められた。

視察旅行に就ては其の後泉越隧道視察の追加、現場打合せに依る行程一部修正等異議なく決定、役員諸君の旅行参加不参加も此の場で決定された。二十周年記念に關する準備委員には大體前任理事者並に各方面の人士をわづらはすこととし下記の諸君を推薦することに決定した。

各前會長	各前副會長	那須章彌君	生野團六君	丹治經三君
近新三郎君	黒河内四郎君	野口寅之助君	前田興一君	池邊稻生君
水津正治君	森田三郎君	萩原俊一君	平山復二郎君	沼田政矩君
宮本武之輔君	三浦七郎君	來島良亮君	内海清温君	山口昇君
黒田武定君	宮長平作君	大島滿一君	草間偉君	大岡大三君
永田兵三郎君	米山辰夫君	小川織三君	關毅君	錢高作太郎君
鹿島精一君	山形要助君	久保彌太郎君	江橋禎二君	原全路君
中野深君				

而して第一回會合は5月22日海上ビル内中央亭にて開催せらるゝことになつたが記念祝賀會を開くものとすれば本會創立記念日である9月15日を希望せらるゝ向が多かつた様である。然し第一回準備委員會にて相當御意見があるものと思はれる。茲迄は花やかに進んで來た役員會も役員補選に至つて急にしめやかになつた、二月迄は元氣に出席せられた常議員池原英治君の逝去に伴ふ役員補選に移つたからである。先づ平井主事より前例に倣ひ本會より花輪並に弔詞を贈呈したる旨報告あり。暫らくは故人の追憶にふける。本會としても誠に哀悼に堪えない次第である。役員補選は定款第13條に依り役員會に附與された權限である、前例に基き總會に於ける役員選舉の次點者會員那須章彌君を常議員に補選せられた次第である。日本工學會申出に係る工業博物館調査委員會に委員一名推選の件は他との振合もあり一應他學會に照會し決定することとし、學術振興會申出の同會事業紹介は今後適當に會誌に掲載することに決定した。振興委員會よりは既報の通り報告も提出されて居るので役員中より會長、兩副會長、黒田、山口、神原、内海、來島、三浦、衣斐の各常議員を小委員に任命し5月3日第一回委員會を開催することになつた。

専任主事の人選に就ても種々意見は交換されたが、事人事に關するのでこゝに記載出来ないのが遺憾である。次で入退會を決し午後7時30分役員會を終了した。

夕食後常議員寛弼治君が今回滿洲國に轉ぜらるゝに就て眞田會長より次の様な御挨拶があつた。

今日は普通の役員會でしたが今回寛君が滿洲の方へ國道局の部長格として就任せらるゝことに内定したのであります(國道局と云ふても土木に關することは總て取扱ふのであります)不日御出立の筈でありますから役員會としては之が終ではないかと思ふのであります。で此席で役員會として送別の辭を述べたいと思ひます。學

會としては維新の際に同君に去らるゝは誠に遺憾と存するものでありますが君の前途の爲己むを得ないのであります。

同君の受持は河川方面であつて未だ何等對策なき次第でありますから非常に御骨折の事と存じますから充分御自愛あつて御奮勵あらんことを祈る次第であります。實は一席送別の會を開き度いと存じますが御多忙中の事であるから時機を得られないと存じ今夕御序の様に甚だ失禮であります但役員會として一寸御挨拶を述べ同氏の御健康を祝する爲に干杯致し度いと存じます。

之に對し寛常議員より次の様な謝辭があつた。

唯今會長より御丁寧なる送別の御言葉を受けまして恐縮で御座います。此度滿洲國に參るのでありますが至つて不敏のものでありますから職責を充分全うすることが出来ないと存じますが何卒宜しく御指導の程を御願致します。甚だ簡單であります但御挨拶申上ります。

終つて種々懇談せられたが門限の 10 時間近に散會した。

### 編輯委員會

第四回編輯委員會は 4 月 10 日當會々議室で開かれた。大要は會務に報告せる通りであるが尙其經過は次の通りである。

**抄譯に就て：** 現在迄寄稿せられたる抄譯原稿は別紙(省略)の通りであるが尙責任編數に達せないものもあるから一層奮勵を願ふ意味で原稿調を各擔當者に送附すると同時に編輯委員よりも督促せらるゝ様打合せた。

**論說報告の謝禮の件：** 別記の通り謝禮を 3 階級に分ち何れも紀念品として銀メダルを贈呈し其殘額は副賞とし丸善其他の商品券を充てる事にした。其メダルには表面に會長の肖像を浮彫し裏面には「土木學會及年號」を刻むことに略内定したが其意匠に就ては研究の事とす。かくて第一號乃至第三號に登載せられた 7 論文に對し夫々階級を定めた。

**各種工事報告を蒐集之件** 論說報告欄に工事報告の抄きを遺憾とし下記諸工事(概略)に就て關係諸氏に依頼することとした。

**其他** 彙報及參考資料はニュースバリューに富んでゐるものが多いのであるから之れを一々編輯委員會に掛けた後では時期を失する憂があるから編輯委員が推舉せるものは成る可く早く登載して委員會には事後承認となすこととなつた。

### 講演會

既報の如く 3 月 30 日鐵道協會に於て參謀本部支那班長柴山乘四郎中佐の「最近の滿洲事情に就て」の講演があつたが時節柄聴衆も 100 名を越え學會の講演會としては稀に見る盛大なるものであつた。

講演は午後 5 時 20 分から 6 時 45 分迄約 1 時間半に亘り本誌掲載の如く主として熱河及北支那を中心とした最も耳新しい現状を述べられた。

此の講演後、聴講した會員中の有志と講演者との晚餐會が催され、この席で更に相當微細な實情をも座談的に話され一同興味深く傾聴した。

當々戦争に縁の遠い會員連の事であるから先づ何萬位日本軍が行つてゐるとか、飛行機や自動車などがどれ位戦つたか等と言ふ質問から始つた(以下種々數字は省略す)熱河では戦争當時温度は零下 45 度にも降り、河川は殆んど

河底まで凍結するのでアイス・ペーブメントの様なものので飛行機の着陸離陸は割に自由であると云ふ様な話も出で話題は自ら滿洲の交通機關の問題に移つた。

滿洲の運輸交通は鐵道以外では自動車と支那馬車等が主なものである。今後に於ける鐵道と道路との利用を比較するに講演者の意見ではやはり鐵道でよくないかと云ふに傾いてゐた。即ち少量の物資を速く運ぶよりも少し位手間取つても大量を搬出することが必要であつて特に農産物の出廻期にのみ用ひ得る様な輕便な鐵道を敷けばよいのではあるまいか又道路にしても鐵道にしても維持修繕費には匪賊によつて破壊されることを豫想しなくてはならぬさうである。

道路交通の問題で最も考ふべきは高粱(カウリヤン)から採取するアルコールを燃料として自動車を動かすことである之がうまく行けば滿洲の道路交通の問題は解決されるさうである。之は滿洲のみならず内地にも影響するところ甚大であらう。

次に滿洲土民の食糧と日常生活 土民の主要食糧は高粱である、内地から移住した者も始めはかなり苦痛であるが馴れれば食べられるし、之が食べられる様にならなければならぬさうである。日本で云ふ支那料理の如きは凡て非常な御馳走で常食ではない。支那人は一般に流動物の中に固形物を混せて食ふのが常習であつて日本人の様に米飯と汁や固形のお菜を別々に食はない、又刺身の如き生のものは絶対に食はない。

支那滿洲人の日常生活で内地人と變つたところは第一夫婦愛である、其の源は支那の男は婦人に對し執着を持たぬ事から始まるので主婦は家の内で絶大の権限を有し、夫婦喧嘩が絶えない。屢々戸口に出て喧嘩のことを泣きながら大聲で近所中に宣傳する之も支那人の宣傳上手な事の例である。斯く第一婦人が餘り威張り過ぎるので女に執着を感じない亭主共は第二、第三婦人を求め多妻となるのではあるまいか、兎に角支那の女はよくない、此處で冗談ではあるが日支親善の第一要訣は「日本の男はだめだが女はよい世界一である、支那の女はだめだから支那は男ばかりにして日本は女ばかりにすれば日支親善成功疑なし」と言ふ支那人の言を聞いた事がある。

今後の問題として考へなければならぬ事は内地人の移民問題である。北海道式に日本人に辛棒出来るかしらん?と云ふ質問が出た講演者の意見では個人的移住では成功すまい、どうしても政策的に國家事業としなければいけない。

食糧等が前記の如くで高粱にも馴れなければならぬのであるから内地に於て饑饉に遭つたり山の中で芋を食つて生活してゐると云ふ様な特殊の條件にある人は行つて高粱を食べる方が寧ろよいのではないか、其様にして成功してゐる人も既にある、温度も寒いと云つても青森の一部とは同程度の處もあるのだから大した心配はあるまい。主として農業をやるのであるが今後自作農移民もよいが之れと同時に大資本の力を借りて企業農法をやることも必要である。むこうの農業の方法は極めて原始的なものだから、日本人が行つてやるとむかうの四、五人前はやれる。土地は今のところ餘つてゐるから内地の様に肥料を用ひず又小面積から多量の收穫を得ることを望まず寧ろ少量宛でも大面積から取つて多量生産を圖る方が有利である。

宗教は日本内地から大本教、天理教等が這入つて盛に布教に活動してゐるそうで信者の移民は考へなければならぬ全體にばらまいた方がよいとの話であつた。

次に話題は支那の軍閥と支那内地の狀況に移つた。(軍閥の話は講演の當時の極く最近のお話であつたが今日ではもう又變化してゐるであらう)中央軍部蔣介石直系及蔣系は湖南、湖北、安徽、河南、江蘇省に據つて合計 88 萬、東北軍は河北省に 14 萬、之等に對して最も恐れられたる共產軍は江西省を中心に 33 萬、反張學良軍は山東、山西に 12 萬、反蔣介石軍廣東軍の 11 萬、其他 10 萬あり之間に介在する福建の十九路軍、廣西軍等々の地方軍は



合計 55 萬を算し之等が錯雜したる關係にあり將に戰國時代の如き觀がある。

之等の話は我々にはかなり縁遠きことで殆んど知らなかつたところで支那は滿洲事變どころではない支那本體が如何に苦惱の中にあるかを知り得た。ところが支那は兎に角廣いところで奥地に這入れば支那人自身も滿洲が支那に如何なる關係にありて、今如何なる問題が日本との間に起つて居るかも知らぬものが居る地方があるさうである現在軍閥の問題も亦滿洲問題を問題とせる時廣東、湖南、湖北、陝西省位までに於て西方では殆ど何も考へて居らぬし四川省の如きは既に事實上獨立の形であるとのことである。こゝに最も日本人が問題視せる共産黨軍の事であるが之も我々の豫想したものとはかなり異なる様である。支那が共産化するや否や又その我國に對する影響如何と云ふことであるが前者はむしろ支那民衆自體に關する觀察に依つて判斷せられるべきもので歴史的に民族的に視て漢民族と云ふものが共産化するゝ素質ありや否やに依つて判るが講演者の考へでは恐らく“支那は共産化すまい”と信ぜられるさうである。

現在の共産化と稱して居るものも眞の共産主義ではなく何かしら新しい政治をしやうと云つてやつて居るのであつて云はゞ小部落單位の共産化をやつてゐるので全然共産化することもあるまいと思はれるし、ロシヤ式の國家統制中央集權的の共産とはなるまい、大家族的の共産主義で従つてロシヤ式の共産主義を奉ずることはあるまい。

ロシヤも此の點で支那には手を焼いてゐる状態である。即ち今日までの歴史的過程、政治的過程から見ても第三インターナショナルではないと斷言された、従つてロシヤが日本を赤化する足場としてやられるのなら恐ろしいがさうはならないのではあるまいか、却つて支那に共産主義者がゐると云つても日本から主義者に行つてもらつた方がよくはないか。

茲で講演者一流の支那觀に移つた同君は支那奥地に這入られたこともあるさうでまことに傾聴に値するものがあつた。

支那は四千年來變らぬものだ。四千年來變らぬものが支那の姿である。大海の波濤の如く唯表面は波亂あり又色々の色に染換へられても下の方には四千年來依然として動かぬものがある。

支那程「長さ」、「深み」の大なるものを持つた國はない。「漫遊」と言ふ言葉は實に支那旅行にふさはしき言葉である、試に上海に上陸して御覽なさい其處には全世界の最尖端に行くものがある、之より江を遡れば最奥には今日尙唐宋時代の生活をしてゐるものがある、新聞等と云ふも四千年來讀んだ者がゐないか偶々新聞を見るも之は上海あたりから這入つて來た何かの包紙位のものである。此の地方は今に行燈を用ひてゐる。

遡江の漫遊は實に時代的旅行、深味のある旅行で支那が實に四千年來の厚味を有つ國だとの感を深くする。

奥には軍閥政治の生活と全然離れた民衆の生活があり、別世界である。

何物をも知らうとせず唯改々として稼ぎ金は土に埋め銀行などはなく、天國に近い幸福な生活を送つて居る、支那に於て苛歛誅求と云ふ事は屢々云はれるがそんなことはない、税などは日本の何十分の一である、第一何處に資本があるか判らぬから適當に取つてゐる丈である僅かに通行税をとつてゐる、民衆は税を税として意識はしない金を無心されて何らかの効果が上つて來れば寄附金と感じ、取られぎりなればユスリ位に見て居る。税に依つて便宜を計つて貰はうなどは希望して居ない之は滿洲でも同様である、人口 1500 萬、豫算 9000 萬圓で關稅など間接税が大部分で 1 億圓を取るに何等困難はしないのであるが未だ 1 億の豫算を樹てた事はない。熱河人が苛歛誅求さるゝ事を嫌がつたと云はれるが常に少し位取られる事を何とも思つて居ないので戦争などで一時に 20 萬も 30 萬もの軍人がやつて來て何日も何日も居られて食料を食ひ盡される事を恐れて居るのである。日本軍は行つても追送品が來て其上分配さへして貰へるので日本軍は歡迎されるのである。

扱て此度の戦争で支那軍の死傷が我軍に比して非常に多かつたと云ふことは事實である。何故かと言ふと支那人は積極的に出ず即ち死を曝すことはしない、退却も進軍も臆病でやつてゐるのではなく命に執着はない様だが勇敢に戦ふことをしないのである。所が日本人は臆病ではあるが國の爲、家族の爲、名譽の爲と云ふ傳統的精神によつて奮戦するので全く死を超越せる精神力によるからである。

尙質問百出で歡談容易に盡くべくも見えなかつたが早や 9 時を過ぎたので散會した。

## 寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること。原稿用紙は御請求次第送附す。
  - (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 120 枚（本會誌 30 頁）程度とされし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
  - (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビア文字を用ひられたし。
  - (4) 歐字は特に明瞭に認むること。  
n と u, u と v, r と v, a と o, r と γ  
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
  - (5) 原稿には必ず冒頭に英文表題及内容梗概を添附されたし。
  - (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
    - (イ) 圖面はその儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。
    - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
    - (ハ) 方眼紙は青野のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には餘め墨線にて之を描き置かれたし。
  - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉太に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
  - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと認め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭なるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。  
算式其の他の記し方大體標準。
- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 $a/b$  と書き  $\frac{a}{b}$  を避けること。 $(a+b)/(c+d)$  と書き  $\frac{a+b}{c+d}$  を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}a$  と書き  $\frac{a}{3}$  を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$  と書き  $\frac{a+b}{2}$  を避けること。 $\frac{a}{b+cd}$  と書き  $\frac{a}{b+cd}$  を避けること。
- (3) 千以上の數字は 58 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様を書くことを避くること。  
83.4 尺（八丈三尺四寸）、7 吋（七吋）、35 錢（三十五錢）、13.56 圓（十三圓五十六錢）、1~4 時間（一乃至四時間）、88 326 噸（八萬八千三百二十六噸）、1931 年 1 月 1 日（千九百三十一年一月一日）。

## 新入會者にして既刊會誌希望者に告ぐ

本會々誌は新入會者には入會の月より以降發行に係るものより配布致すべきに付其の以前の會誌御希望の場合は一部に付下記金額振替口座東京一六八二八番に拂込み用紙通信欄に其旨記入請求せられたし

### 残 部 内 譯

第五卷一號二號	一部	金壹圓	圓
第六卷六號	同	金壹圓	圓
第七卷二號三號四號	同	金壹圓	圓
第八卷一號	同	金壹圓	圓
第九卷一號二號三號五號六號	同	金壹圓	圓
第十卷二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
第十一卷二號	同	金壹圓	圓
第十二卷二號三號五號六號	同	金壹圓	圓
第十三卷二號三號六號	同	金壹圓	圓
第十四卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
第十五卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金壹圓	圓
第十六卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金壹圓	圓
第十七卷一號二號三號四號五號六號	同	金壹圓	圓
同 七號八號九號十號十一號十二號	同	金壹圓	圓
第十八卷二號三號四號五號	同	金壹圓	圓
同 六號七號八號九號十號十一號	同	金壹圓	圓
第十九卷一號二號三號四號	同	金壹圓	圓
東京市内外交通に関する調査書	同	金拾八圓	圓
震害調査報告書(一、二、三)	同	金拾八圓	圓
土木工事寫真集	同	金貳圓	圓
應用力學聯合大會講演集	同	金壹圓	圓

### 本會會員轉居又は旅行の場合の注意

會員の住所の不明なときは會誌の配布を始め其他通信上に差支候に付御轉居の際は至急明細に御通知相成度又御旅行等に御不在となるも會費支辨には差支なき様御配慮相成たし

### 會 費 納 付 に 付 注 意

本會々費は下記の通りにして本會より發する振替集金に對し是非御支辨願度事若し此の集金書へ十五日間中三回の取立金支拂なき場合は最寄郵便局に就き本會振替口座東京一六八二八番に(拂込用紙通信欄に會費たる事を記入の事)御拂込相成度尙會費一時納付の御豫定又は其の他の都合に依り支拂なき場合は直に御通知相煩度

朝鮮滿洲の一部及び青島等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末頃迄集金を受けざる時は爲替其他の方法に依り直ちに御送金相成たし

會員種格	會費年額	自一月至四月 第一期分二月徴收	自五月至八月 第二期分六月徴收	自九月至十二月 第三期分十月徴收
會 員	金拾八圓	金六圓	金六圓	金六圓
准 員	金拾貳圓	金四圓	金四圓	金四圓
學 生 員	金七圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢	金貳圓五拾錢

新に入會したるものは月割算として入會の翌月集金を發す

### 會 費 未 納 に 付 注 意

會費は從來年額を第一期第二期第三期に分割し毎年二月六月十月に振替貯金郵便として取立方を郵便局に依託の處往々集金郵便に對して故なく支拂を拒絶し尙他の方法に依りても送金なき者あれ共斯くては會費滞納者として遺憾ながら規則第十三條第一項に依り遂に會誌の配布を停止せらるゝに至るべく又本會に於ても未納金督促の手數一通ならず故に今後右様のことなき様特に御留意の上集金郵便に御拂込相成たし

### 會 誌 未 着 の 場 合 の 注 意

會誌は毎年毎月十五日(印刷又は原稿等の都合に依り遅延する事あり)に發行し漏なく配布すべきに付未着の場合には一應本會に御照會相成たし從來往々發行後數ヶ月經過して照會せらるゝ向あるも斯くては發部皆無となり遺憾ながら配布不可能のことあるべきに付御留意相成たし

會 告

日本工學會用語統一調查委員會經過報告

# 會 告

## 日本工學會用語統一調査委員會 應用力學用語決定報告

豫て統一用語審議中の應用力學の部は第一次決定後引續き第二次決定を経て第三次決定委員會に於て下記の通り決定した。

### 緒 言

1. 日本工學會用語統一調査委員會は工業の各部門に共通なる用語を統一する目的で目下其審議を進めて居るのであるが、應用力學關係用語は其關係する範圍が最も廣いので、成るべく早く之を統一することは有利であり、又一昨年應用力學聯合大會からも日本工學會に對して同様の希望を申越されたので、本委員會は先づ主として材料力學關係の用語を審議して之を決定した。

2. 用語選定方針は既に本委員會で決定した一般方針に依つたものであるが、特に斷つて置く方がよいと考へた數項を次に掲げる。

- (1) 材料力學關係用語の中で一般に必要と認めただけを拾集した。
  - (2) 漢字を用ひたものは凡て假名で読み方を示した。
  - (3) 各用語には之に該當する英語を添えて字義を明かにした。又特に必要と思はれるものには簡単な註釋を加へた。
  - (4) 漢字は成るべく文部省發表常用漢字表に依る事にしたが、必要と認めたものは表以外のものも採用した。至、橢圓、塑性の如し。
  - (5) 文部省發表常用漢字表に略字あるものは之に依つたが、それ以外の略字を採用したのもある。應(應)、壓(壓)の如し。
  - (6) 漢字には原則として透り假名を附けぬ事にしたが、特に読み違へる處あるものには之を附けた。曲ゲ、曲リ、振りモーメント、振レ角、垂ミ、強サ、脆サの如し。
3. 本委員會は日本工學會々員たる 12 學會より指名した委員各 2 名、資源局技師 1 名及日本工學會主事より成るも、應用力學關係用語の審議には特に此方面に關係深い諸氏の參加を請うたものである。

委 員

日本鑛業會	渡邊浩一	工業化學會	牧鏡夫
同	佐野秀之助	衛生工業協會	北浦重之
日本鐵鋼協會	田中清治	同	木下功一
同	鹽澤正一	電氣學會	肥田丈夫
土木學會	藤井眞透	同	加藤鎌二
同	沼田政矩	電信電話學會	初見五郎
火兵學會	西松唯一	同	鈴木壽傳次
同	千藤三千造	機械學會	竹村勘悉
造船協會	山本幸男	同	今泉恆
同	島谷敏郎	照明學會	宗正路
建築學會	笠原敏郎	同	本城巖
同	長倉謙介	資源局技師	堀口益孝
工業化學會	友田宜孝	日本工學會主事	三輪震一

臨時委員

東京帝國大學教授	井口常雄	東京帝國大學地震研究所助手	西村源六郎
早稻田大學教授	内藤多仲	東京帝國大學教授	山口昇

4. 此の選定用語は前に述べた様な趣旨と機關とによつて決定されたものであるから是非我邦工業關係各方面に於て今後一般に之を採用して貰うことを切望する次第である。

昭和八年三月

日本工學會用語統一調査委員會委員長 笠原敏郎

# 日本工學會用語統一調査委員會

## 應用力學決定用語

上記報告の通り日本工學會用語統一調査會委員會に於て第一次、第二次及第三次決定委員會に於て決定せし用語は次の如し

番 号	用 語	目	次	番 号	用 語
1~5	力 學		147~151	応力図, 剪断力図等	
6~36	力, 引張, 圧縮		152~163	主軸, 中立面, 断面係数等	
37~46	モーメント, 曲ゲ, 振り		167~174	弾性係数, ポアソン比等	
47~70	荷 重		175~183	弾性限度, 比例限度, 疲等	
71~80	仕事, エネルギー, 衝撃等		184~212	強サ, 硬サ等	
81~87	圧 力		213~229	梁, 柱, 支点	
88~120	応力, 安全率		230~245	構造物, 節点, 図解法	
121~146	歪, 変形, 伸, 垂ミ等		246~250	振 動	

番号	決定用語	讀ミ方	英 語	備 考
1	応用力学	オウヨウリキガク	applied mechanics	
2	材料力学	ザイリョウリキガク	strength of materials	
3	応用弾性学	オウヨウダンセイガク	applied elasticity	
4	静力学	セイリキガク	statics	
5	図解力学	ズカイリキガク	graphic statics	
6	力	チカラ	force	
7	力の合成	チカラノゴウセイ	composition of forces	
8	力の分解	チカラノブンカイ	decomposition of force	
9	合力	ゴウリョク	resultant force	
10	分力	ブンリョク	component, component of a force	
11	力の釣合	チカラノツリアイ	equilibrium of forces	
12	示力図	シリョクズ		力ノ三角形及力ノ多 角形ノ総稱
13	力の三角形	チカラノサンカクケイ	triangle of forces	
14	力の多角形	チカラノタカクケイ	force polygon	
15	連力図	レンリョクズ	funicular polygon, line polygon, link polygon	
16	軸方向力	ジクホウコウリョク	axial force	
17	縦力	タテリョク	longitudinal force	
18	横力	ヨコリョク	lateral force	
19	水平力	スイヘイリョク	horizontal force	
20	鉛直力	エンチョクリョク	vertical force	
21	垂直力	スイチョクリョク	normal force	
22	接線力	セツセンリョク	tangential force	
23	外力	ガイリョク	external force	



番号	決定用語	読み方	英語	備考
24	内 力	ナイリョク	internal force	外力ニ對スルモノ
25	引 張	ヒツバリ	tension	
26	張 力	チョウリョク	tension, tensile force	
27	斜 張 力	ナナメチョウリョク	diagonal tension	
28	圧 縮	アッシュク	compression	
29	圧 縮 力	アッシュクリョク	compression, compressive force	
30	剪 断	センダン	shear	
31	一 面 剪 断	イチメンセンダン	single shear	
32	二 面 剪 断	ニメンセンダン	double shear	
33	押 貫 剪 断	オシヌキセンダン	punching shear	
34	剪 断 力	センダンリョク	shear, shearing force	
35	反 力	ハンリョク	reaction force	
36	推 力	スイリョク	thrust	
37	モーメント		moment	
38	力ノモーメント	チカラノモーメント	moment of a force	
39	曲 ゲ	マ ゲ	bending	
40	單 純 曲 ゲ	タンジュンマゲ	simple bending	
41	曲ゲモーメント	マゲモーメント	bending moment	
42	捩 り	ネ ジ リ	torsion, twist	
43	捩リモーメント	ネジリモーメント	twisting moment	
44	抵抗モーメント	テイコウモーメント	resisting moment	
45	偶 力	グウリョク	couple of forces	
46	トルク		torque	
47	荷 重	カジュウ	load	
48	靜 荷 重	セイカジュウ	static load, dead load	靜力學的ニ加ヘラレル荷重
49	動 荷 重	ドウカジュウ	dynamic load, live load	動力學的ニ加ヘラレル荷重
50	衝 撃 荷 重	ショウゲキカジュウ	impulsive load	
51	引 張 荷 重	ヒツバリカジュウ	tensile load	
52	壓 縮 荷 重	アッシュクカジュウ	compressive load	
53	固 定 荷 重	コテイカジュウ	fixed load, dead load	(建築物等自身ノ重サヲ從來ニ未建築關係ニ於テ用ヒラレタ靜荷重又ハ死荷重ノ意味ノ語)
54	積 載 荷 重	セキサイカジュウ	super imposed load movable load, live load,	(建築物ノ床ニ載セラレタ物品ノ重サヲ從來建築關係ニ於テ用ヒラレタ動荷重又ハ活荷重ノ意味ノ語)
55	移 動 荷 重	イドウカジュウ	live load, moving load, travelling load	構造物上ヲ移動スル荷重
56	集 中 荷 重	シュウチュウカジュウ	concentrated load	
57	分 布 荷 重	ブンブカジュウ	distributed load	
58	等 分 布 荷 重	トウブンブカジュウ	uniform load, uniformly distributed load	
59	等 変 分 布 荷 重	トウヘンブンブカジュウ	uniformly varying load	
60	繰 返 荷 重	クリカエシカジュウ	repeated load	
61	交 番 荷 重	コウバンカジュウ	alternate load	
62	偏 心 荷 重	ヘンシンカジュウ	eccentric load	

番号	決定用語	讀 方	英 語	備 考
63	軸 方 向 荷 重	ジクホウコウカジュウ	axial load	
64	縱 荷 重	タテカジュウ	longitudinal load	
65	横 荷 重	ヨコカジュウ	lateral load	
66	破 壊 荷 重	ハカイカジュウ	breaking load	
67	使 用 荷 重	シヨウカジュウ	working load	
68	安 全 荷 重	アンゼンカジュウ	safe load	
69	許 容 荷 重	キョウウカジュウ	allowable load	
70	危 險 荷 重	キケンカジュウ	critical load	
71	仕 事	シゴト	work	
72	外 力 仕 事	ガイリョクシゴト	external work	
73	内 外 仕 事	ナイリョクシゴト	internal work	
74	仮 想 仕 事	カソウシゴト	virtual work	
75	最 小 仕 事 ノ 原 理	サイショウシゴトノゲンリ	principle of least work	
76	弾 性 エ ネ ル ギ	ダンセイエネルギー	resilience	
77	歪 エ ネ ル ギ	ヒズミエネルギー	strain energy	
78	衝 撃	シウゲキ	impact	
79	衝 撃 エ ネ ル ギ	シウゲキエネルギー	striking energy	
80	打 撃 中 心	ダゲキチュウシン	centre of percussion	
81	圧 力	アツリョク	pressure	
82	圧 力 度	アツリョクド	pressure intensity	
83	土 圧	ド ア ツ	earth pressure	
84	水 圧	スイアツ	hydraulic pressure	
85	油 圧	ユアツ	oil pressure	
86	風 圧	フウアツ	wind pressure	
87	圧 力 線	アツリョクセン	pressure line	
88	応 力	オウリョク	stress	
89	応 力 度	オウリョクド	stress intensity, intensity of stress	
90	合 応 力	ゴウオウリョク	resultant stress	
91	分 応 力	ブンオウリョク	component stress	
92	縦 応 力	タテオウリョク	longitudinal stress	
93	横 応 力	ヨコオウリョク	transverse stress, transversal stress	
94	垂 直 応 力	スイチョクオウリョク	normal stress	
95	接 線 応 力	セツセンオウリョク	tangential stress	
96	斜 応 力	ナナメオウリョク	oblique stress	
97	單 純 応 力	タンジュンオウリョク	simple stress	
98	組 合 応 力	クマイオウリョク	combined stress, compound stress	
99	直 接 応 力	チョクセツオウリョク	direct stress	
100	引 張 応 力	ヒツパリオウリョク	tensile stress	
101	圧 縮 応 力	アッシュクオウリョク	compressive stress	
102	剪 断 応 力	セندانオウリョク	shearing stress	
103	附 着 応 力	フチャクオウリョク	bond stress	
104	曲 げ 応 力	マゲオウリョク	bending stress	

番号	決定用語	説 明 方	英 語	備 考
105	縁 応 力	ヘリオウリョク	extreme fibre stress	
106	静 応 力	セイオウリョク	statical stress	
107	動 応 力	ドウオウリョク	dynamical stress	
103	衝 撃 応 力	ショウゲキオウリョク	impact stress	
109	繰 返 応 力	クリカエシオウリョク	repeated stress	
110	交 番 応 力	コウバンオウリョク	alternate stress	
111	破 壊 応 力	ハカイオウリョク	breaking stress	
112	使 用 応 力	シヨウオウリョク	working stress	
113	許 容 応 力	キョウヨウオウリョク	allowable stress	
114	安 全 率	アンゼンリツ	safety factor, factor of safety	
115	一 次 応 力	イチジオウリョク	primary stress	
116	二 次 応 力	ニジオウリョク	secondary stress	
117	元 応 力	モトオウリョク	initial stress	
118	主 応 力	シュオウリョク	principal stress	
119	応 力 楕 圓	オウリョクダエン	stress ellipse	
120	応 力 ノ 集 中	オウリョクノシュウチュウ	concentration of stress, stress concentration	
121	歪	ヒズミ	strain, deformation	
122	歪 度	ヒズミド	strain	
123	縦 歪	タテヒズミ	longitudinal strain	
124	横 歪	ヨコヒズミ	lateral strain	
125	引 張 歪	ヒツパリヒズミ	tensile strain	
126	圧 縮 歪	アッシュクヒズミ	compressive strain	
127	剪 断 歪	センダンヒズミ	shearing strain	
128	元 歪	モトヒズミ	initial strain	
129	主 歪	シュヒズミ	principal strain	
130	歪 楕 圓	ヒズミダエン	strain ellipse	
131	変 形	ヘンケイ	deformation	
132	永 久 歪	エイキュウヒズミ	permanent set	
133	伸 長	ノビ	elongation	
134	伸 長 率	ノビリツ	elongation percentage	
135	縮 小	チヂミ	contraction	
136	縮 小 率	チヂミリツ	contraction percentage	
137	断 面 縮 小	ダンメンチヂミ	contraction of area, reduction of area	
138	撓 曲	タワミ	deflection	
139	撓 曲 角	タワミカク	slope, angle of deflection	
140	撓 曲 線	タワミキョクセン	deflection curve	
141	反 曲 点	ハンキョクテン	point of inflection, inflection point	
142	曲 率 半 徑	キョクリツハンケイ	radius of curvature	
143	曲 率 中 心	キョクリツチュウシン	centre of curvature	
144	垂 下	タルミ	sag	
145	捩 角	ネジレカク	angle of torsion	
146	彈 性 曲 線	ダンセイキョクセン	elastic line, elastic curve	

番号	決定用語	読ミ方	英 語	備 考
147	応 力 図	オウリョクズ	stress diagram	
148	剪 断 力 図	センダンリョクズ	diagram of shearing force	
149	曲ゲモーメント図	マゲモーメントズ	diagram of bending moment	
150	応 力 歪 図	オウリョクヒズミズ	stress-strain diagram	
151	荷 重 歪 図	カジュウヒズミズ	load deformation diagram	
152	主 軸	シュジク	principal axis (of figure)	
153	図 心	ズシン	centroid, centre of figure	
154	重 心	ジュウシン	centre of gravity	
155	中 立 軸	チュウリツジク	neutral axis	
156	中 立 面	チュウリツメン	neutral plane, neutral surface	
157	慣性モーメント	カンセイモーメント	moment of inertia	
158	断面二次モーメント	ダンメンニジモーメント	geometrical moment of inertia	
159	回 転 半 徑	カイテンハンケイ	radius of gyration	
160	断面二次半徑	ダンメンニジハンケイ	radius of gyration of area	
161	断 面 係 數	ダンメンケイスウ	modulus of section, section modulus	
162	慣性相乗モーメント	カンセイソウジョウモーメント	product of inertia	
163	断面相乗モーメント	ダンメンソウジョウモーメント	product of inertia of area	
164	断面一次モーメント	ダンメンイチジモーメント	geometrical moment of area	
165	慣性極モーメント	カンセイキョクモーメント	polar moment of inertia	
166	断面二次極モーメント	ダンメンニジキョクモーメント	polar moment of inertia of area	
167	弾 性 係 數	ダンセイケイスウ	elastic modulus, modulus of elasticity	
168	ヤ ン グ 係 數	ヤングケイスウ	{modulus of longitudinal elasticity, {modulus of direct elasticity, Young's modulus	
169	剪断弾性係數	センダダンセイケイスウ	{modulus of transverse elasticity {modulus of rigidity, shear modulus	
170	体積弾性係數	タイセキダンセイケイスウ	{modulus of elasticity of volume, {volume modulus, bulk modulus	
171	ポアソン數	ポアソンズ	Poisson's number	"
172	ポアソン比	ポアソンヒ	Poisson's ratio	1/n
173	弾 性 係 數 比	ダンセイケイスウヒ	modular ratio	
174	破 壊 係 數	ハカイケイスウ	modulus of rupture	
175	弾 性 限 度	ダンセイゲンド	elastic limit, limit of elasticity	
176	比 例 限 度	ヒレイゲンド	{limit of proportionality, {proportional elastic limit, proportional limit	
177	降 伏 点	コウフクテン	yield point	
178	ク リ ー プ		creep	
179	破 壊 点	ハカイテン	breaking point	
180	安 定	アンテイ	stability	
181	挫 屈	ザクツ	buckling	
182	疲 勞	ツカレ	fatigue	
183	疲 限 度	ツカレゲンド	fatigue limit, endurance limit	
184	強 度	ツヨサ	strength	

番号	決定用語	読み方	英語	備考
185	強度	キョウド	strength per unit area	
186	極限強サ	キョクゲンツヨサ	ultimate strength	
187	破壊強サ	ハカイツヨサ	breaking strength	
188	引張強サ	ヒツパリツヨサ	tensile strength, tenacity	
189	圧縮強サ	アッシュクツヨサ	compressive strength	
190	剪断強サ	センダンツヨサ	shearing strength	
191	附着強サ	フチャクツヨサ	bond strength	
192	曲ゲ強サ	マゲツヨサ	bending strength	
193	捩リ強サ	ネジリツヨサ	torsional strength	
194	弾性	ダンセイ	elasticity	
195	弾性破損	ダンセイハソン	elastic failure	
196	剛性	ゴウセイ	rigidity, stiffness	
197	剛サ	コワサ	rigidity, stiffness	
198	曲ゲ剛サ	マゲコワサ	flexural rigidity	
199	曲ゲ剛性係数	マゲゴウセイケイスウ	flexural rigidity	
200	捩リ剛サ	ネジリコワサ	torsional rigidity	
201	捩リ剛性係数	ネジリゴウセイケイスウ	torsional rigidity	
202	硬サ	カタサ	hardness	
203	ブリネル硬度	ブリネルコウド	Brinell hardness	
204	歪硬化	ヒズミコウカ	strain hardening	
205	脆性	ゼイセイ	fragility, brittleness	
206	脆サ	モロサ	fragility, brittleness	
207	粘性	ネシセイ	viscosity	
208	粘サ	ネバサ	viscosity	
209	塑性	ソセイ	plasticity	
210	靱性	ジンセイ	toughness	
211	展性	テンセイ	malleability	
212	延性	エンセイ	ductility	
213	梁	ハリ	beam	横力ヲ換テ起スモノ
214	單純梁	タンジュンバリ	simple beam	
215	片持梁	カタモチバリ	cantilever	
216	固定梁	コテイバリ	fixed beam, constrained beam, built-in beam	
217	連続梁	レンジクバリ	continuous beam	
218	曲リ梁	マガリバリ	curved beam	
219	スパン		span	
220	内法スパン	ウチノリスパン	clear span	
221	小間	コマ	bay	
222	柱	ハシラ	column	
223	長柱	チョウチュウ	long column	
224	細長比	ホソナガヒ	slenderness ratio	
225	支点	シテン	supporting point	
226	固定端	コテイタン	fixed end	
227	自由端	ジュウタン	free end	

番号	決定用語	説 明 方	英 語	備 考
228	回 転 端	カイテンタン	rounded end, hinged end	
229	移 動 端	イドウタン	movable end, roller end	
230	構 造 物	コウゾウブツ	structure	
231	不 静 定 構 造 物	フセイテイコウゾウブツ	statically indeterminate structure	
232	静 定 構 造 物	セイテイコウゾウブツ	statically determinate structure	
233	ト ラ ス		truss	梁節骨組ノ意
234	ア ー チ		arch	
235	ラ ー メ ン		Rahmen	梁節骨組ノ意
236	骨 組	ホネグミ	frame work, skeleton	
237	引 張 材	ヒツパリザイ	tension member	
238	圧 縮 材	アッシュクザイ	compression member	
239	曲 ゲ 材	マゲザイ		
240	剛 節	ゴウセツ	rigid joint	
241	滑 節	カッセツ	pin joint	
242	節 点	セツテン	panel point, joint of frame work	
243	図 解 法	ズカイホウ	(graphical solution graphical analysis	
244	撓 角 法	トウカクホウ	slope deflection method	
245	定 点 法	テイテンホウ	fest punkt method	
246	振 動	シンドウ	vibration	
247	自 由 振 動	ジユウシンドウ	free vibration	
248	強 制 振 動	キョウセイシンドウ	forced vibration	
249	減 衰 振 動	ゲンスイシンドウ	damped vibration, damped oscillation	
250	減 幅 振 動	ゲンブクシンドウ	damped oscillation	

## 雑誌閲覧に就ての會告

下記の雑誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は下記時間内御随意に御閲覧相成度候。

### 閱 覽 時 間

日曜日及祭日休，土曜日自午後一時至同四時，其他自午後四時至同八時。

但し役員會，委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被下度候。

### 備 付 雜 誌

衛生工業協會誌	國際 築 建 時 論
機 械 學 會 誌	造 船 協 會 々 報
業務研究資料 (鐵道大臣官房研究所)	帝 國 鐵 道 協 會 々 報
建 設	鐵 道 與 鋼
建 築 雜 誌	電 氣 學 會 誌
工 學 部 紀 要 (東大, 京大, 九大)	電 氣 製 鋼
工 學 報 告 (東北帝大)	土 木 建 築 雜 誌
工業化學雜誌	日 立 評 論
工 事 畫 報	名 古 屋 工 業 會 々 報
工 港 政 務	滿 洲 技 術 協 會 誌
	其 他 寄 贈 雜 誌

廣 告 料 (東京市京橋區築地上柳原町八番地 東京第一通信社取扱)  
電話京橋 872 番 振替東京 3069 番

普通廣告 一回一頁 40 圓 一回半頁 25 圓

指定廣告	裏表紙三面對向 及廣告初頁	一回一頁 60 圓
	裏表紙三面	一回一頁 150 圓
	色アート	一回一頁 75 圓

- 指定廣告は凡て一箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の一割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては半箇年分五分引，一箇年分一割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす